議 会 運 営 委 員 会 行 政 視 察 概 要

平成３０年１０月２３日（火）
於　加賀市議会　３０１会議室
午後１時　～　午後３時

１　調査の概要説明

…………………… 加賀市議会林議長、南出議員、市議会事務局次長

「タブレット端末の導入について」

平成２７年度より、9.7インチのiPadを各議員に貸与する形でペーパーレス化を実施。運用経費を抑える目的で、Wi-Fiモデルを採用。議場、委員会室等、議会フロアにWi-Fi環境を整備。また、議員自宅にもWi-Fi環境を整備している（費用は議員各自が負担)。文書共有ソフトは、導入せず。ビューアソフト「i 文庫 HD」を購入し、同ソフトの本棚機能を格納したデータ整理に活用している。また、庁外での視察などの際にもタブレットを活用できるよう、Wi-Fiルーターを１台購入している。

導入により紙代は、従前の半分になった。書類整理が容易になり、多くのデータを活用できるようになったことが大きい。また、差し替え等に早急な対応ができるようになったこと、Gメールで議員への連絡、スケジュール管理が行えるようになったことも、メリットのひとつである。

「議会災害対策本部設置要綱・議員の災害行動マニュアルの策定・活用について」

平成２６年度に、総務委員会で議会災害対策本部設置要綱を、基地・防災特別委員会で行動マニュアルを策定した。策定後は、本会議開催時を想定した訓練と救命講習を実施したほか、タブレット端末を用いた災害情報の収集・伝達訓練を実施して、課題を検証している。今後は、先進市の大津市議会等を参考に議会版ＢＣＰの策定を目指している。

「議会活性化の取り組みについて」

福井県あわら市議会と議員連盟を結成し、県境の市同士、共通する課題（新幹線停車駅、国道整備等）について、国会議員も交え協議し、国へ要望活動を行っている。その他、会議録の速報版の作成や、議会だよりモニター制度などにも取り組んでいる。

２　主な質疑応答

問　端末仕様の取り決めは、どこで行ったか。

答　ＩＴ部会で機種検討から立ち上げまで行った。

問　年齢を問わず、全議員がタブレット端末を使えるようにするため、工夫した点はあるか。

答　議会活性化特別委員会の若手の委員が中心となって、年配議員の自宅へ出向き Wi-Fi 環境を整え、タブレットを使えるようレクチャーした。今は、すべての議員が使えている。

問　ペーパーレス化のメリットとして感じていることは。審議の効率化は、どのような形であらわれているか。

答　審議の効率化は、議会の本質に関わる問題なのでタブレット端末導入とは直結しないが、過去のデータが簡単に見られて、容易に比較検討できるようになった。また、自身が所属していない委員会の資料等も容易見られるほか、それらの市政資料を市民への説明等にも活用することが容易になっている。また、差し替えの手間が格段に少なくなった。

問　緊急時のメールへの返信は求めているか。

答　返信は求めていないが、会議の連絡等すべてメールにて行い、メールを見ることは義務であるという考え方を浸透させた。

問　理事者側のタブレット導入は。

答　着脱できるパソコンを、部長と各部庶務担当課長に配備しているが、Windows モデルなので議会とは互換性がない。

問　災害対応におけるタブレット端末の活用は。

答　議員提案により制定した災害対策基本条例の理念基づき、今後、議会ＢＣＰ（業務継続計画）策定を目指しており、その中で、災害時のタブレット端末を活用した情報集約もできるのではないかと考えている。

問　あわら市との連携のきっかけは。

答　両市は、どちらも福井県、石川県の端に位置し、実現したい課題が共通する部分が多かったため、両市の議長の思いが共鳴し、実現した。

問　小学生の傍聴のため、質問の内容を工夫しているのか。

答　特にそういった調整は行っていないが、くじ引きで質問順を決めており、小学生が傍聴する日に質問する議員は、あらかじめ決まるので、その議員が小学生にも分かりやすいよう、若干の配慮をしていることもある。

問　委員会のライブ中継について、支障はないか。

答　基本的にすべての会議は公開するという考え方が浸透していて、紳士的な対応になっている、

問　議会報告会における工夫は。

答　参加者の固定化、減少等の課題はある。報告内容を工夫し、テーマを絞って質疑応答を行うなどしている。

以　上